

令和8年2月9日

薬学部薬学科新入生 保護者 各位

国立大学法人 熊本大学
薬学部長 香月 博志

熊本大学基金への寄附のお願い
(高度先導的薬剤師養成のための実務実習経費補助)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、ご子息・ご息女の熊本大学薬学部薬学科へのご入学、おめでとうございます。本学薬学部薬学科は「豊かな人間性、柔軟な社会性、医療における倫理観を育みながら、医療系薬学及び衛生・社会系薬学を中心とした応用的学問を修得し、高度化する医療において薬物治療の指導者となる資質の高い薬剤師、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者として活躍する人材の育成」を目的として教育・研究を推進しております。教職員一同、これから6年間のご子息・ご息女の成長を導き、支えていく所存でございます。

さて、臨床に係る実践的能力を培うことを主たる目的とする6年制薬学教育課程が平成18年度に開始となって早20年が経過し、平成30年度以降の大学入学者については当該教育課程の正規の卒業者のみが薬剤師国家試験受験資格の賦与の対象となります。6年制薬学教育課程においては、全国の薬学部・薬系大学に共通して計22週間の実務実習が必修化されております。薬学科5年次生は、薬学部のキャンパスを離れて保険薬局や総合病院に実習生として配属され、現場での薬剤師の職務を体験しながら知識・技能・態度を磨くこととなります。薬局や病院といった学外施設に実習生を長期間預けるにあたって、全国の薬学部・薬系大学はいずれも受入れ施設に実務実習経費(実習生1名あたりの総額で約60万円)を納めているという実態がございます。熊本大学薬学部は、これまで、医学部附属病院の活用(全国でも唯一の、病院実務実習の一部としての医学部生と合同のポリクリ実習の実施など)や市内の複数の総合病院との提携等によって実務実習経費の支出削減に取り組むのに加え、文部科学省 高度先導的薬剤師養成プログラムに他の国公立大学薬学部と共同申請を行いつつ、熊本大学薬学部独自の、チーム医療に対応できる高度な薬剤師教育を維持しながら、さらなる様々な自助努力をし続けて参っております。それでもなお、私立薬科大学においては、この実務実習経費を通常の授業料と別途に学生から徴収する、あるいは、すでに授業料として徴収するという方式が一般的ですが、国立大学では規則上、別途に経費を徴収するという形を取ることができず、結果として1年間の授業料(535,800円)を超える額を22週間の実務実習のためにだけ使われていることになり、実務実習以外の期間の経費は、大学の自

助努力で賄わなければならないという異常な状況に置かれております。昨今、文部科学省から国立大学法人への運営費交付金が毎年削減されていく中で大学本体の財務状況が逼迫してきておりますことから、近い将来、薬学科学生の実務実習経費の捻出を継続していくことが極めて困難になることが予想されます。

そこで、薬剤師国家試験受験資格を有する薬学科の新入生の保護者の皆様におかれましては上記の事情をお汲み取りいただき、確定申告時に税制優遇措置がある「熊大基金」としての寄付という形で、本学でのご息女・ご息女の教育を支援していただきたく、ここにお願い申し上げる次第でございます。本学においても様々な形でさらなる自助努力をして参りますが、寄付額の目安としましては、実務実習経費（実習生1名あたりの総額で約60万円）の半額相当以上のご支援をいただけますと幸いです。

熊本大学基金及び寄付方法の詳細につきましては、熊本大学基金（<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>）のホームページをご確認いただけますようお願い申し上げます。

当基金へご寄附いただく際には、事業指定で「薬学部教育研究支援事業」をお選びいただくことで、薬学部薬学科学生の実務実習経費として活用させていただきます。

また、当基金は随時寄附を受け付けておりますので、毎年5万円を5年間にわたり分割してご寄付いただくこともできます（実務実習は5年次に実施されます）。

なお、寄付者名は、ご希望により、全学広報誌であります「熊大通信」に掲載されます。

入学準備等でご多用のところかとは存じますが、熊本大学薬学部薬学科の薬剤師養成教育の充実・発展にご協力・ご支援を賜れば幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具



熊本大学基金ホームページ

<https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>